

俳諧古今抄

再撰貞享式
日之二



~ 5
922
2



再撰貞吉子式

日之二

○押字と抱字此事

むより押字^ホ抱字^ホの^ホつと連流^ホした各月^ホお
例としてあるとあるは^ホ用^ホた^ホ不^ホ台^ホ的^ホある^ホ○今^ホ持^ホ方
に押字と^ホとある^ホト^ホとある^ホお^ホと^ホ解^ホの^ホ詞^ホ
あり^ホい^ホい^ホの^ホ字^ホの^ホ字^ホは^ホお^ホり^ホと^ホ来^ホと
係^ホま^ホし^ホ一^ホ抱^ホ字^ホに^ホお^ホり^ホと^ホお^ホり^ホと
つ下^ホに^ホ詞^ホと^ホある^ホも^ホある^ホの^ホ字^ホと^ホある^ホの^ホ詞^ホ
と^ホある^ホの^ホ字^ホは^ホお^ホり^ホと^ホ通^ホ用^ホと^ホ係^ホ



貞吉子式

こにも女用といふ或とら。と滑るなり。と滑るなり。或は
字ふらと滑るなり。押と推と。押と推と。押と推と。押と推と。押と推と。

押字
抱字

何の末に也といふは、
又もや秋を色くのみ金哉。

これ以前季と仔細に押は来らば、
といはる。宗原の抱とあるは、
のむといふとら。といふは、
へきれといふ。といふは、
いふ句のつ子とある。一後季と推のい様押也。

こらと女用といふ或とら。と滑るなり。と滑るなり。或は
と推と。秋の差をいふ。とら。と推と。秋の差をいふ。
とけや。と推の耶といふ。とら。と推と。秋の差をいふ。
と推と。秋の差をいふ。とら。と推と。秋の差をいふ。
と推と。秋の差をいふ。とら。と推と。秋の差をいふ。
と推と。秋の差をいふ。とら。と推と。秋の差をいふ。
と推と。秋の差をいふ。とら。と推と。秋の差をいふ。
と推と。秋の差をいふ。とら。と推と。秋の差をいふ。
と推と。秋の差をいふ。とら。と推と。秋の差をいふ。
と推と。秋の差をいふ。とら。と推と。秋の差をいふ。
と推と。秋の差をいふ。とら。と推と。秋の差をいふ。
と推と。秋の差をいふ。とら。と推と。秋の差をいふ。
と推と。秋の差をいふ。とら。と推と。秋の差をいふ。
と推と。秋の差をいふ。とら。と推と。秋の差をいふ。
と推と。秋の差をいふ。とら。と推と。秋の差をいふ。
と推と。秋の差をいふ。とら。と推と。秋の差をいふ。

右巻巻二

はたしなれぬの御奉とまらうし世を切らふ
さしと世の事らむし世を切らむと
りくせしるしと世を切らむと
の詞のあやうしと世を切らむと
考らうし世の事らむと
さしと世の事らむと
に世を切らむと
秘家の事らむと
一合と加らむと
用しと世を切らむと

「まゝいあむと」はとての法とらふ
「まゝいあむと」はとての法とらふ
「まゝいあむと」はとての法とらふ
「まゝいあむと」はとての法とらふ
「まゝいあむと」はとての法とらふ
「まゝいあむと」はとての法とらふ
「まゝいあむと」はとての法とらふ
「まゝいあむと」はとての法とらふ
「まゝいあむと」はとての法とらふ
「まゝいあむと」はとての法とらふ

古今抄

しよらしといへし△様まゝ撰まらるるおのり
取らるる此の向あんとしよの際とていひ
さうさうあくはしとておのり向し所向し
言言怪法あされいん入るもやま
今より不業のこあして滅後し胡乱ちる
持ときとて又七言とてあんとて
奥此おる

田一すん持てまざるの柳うさ
おさう扇引らくくお持共

されけりし奥此おるとおのり奥此記

武のまお持とらおるよ字も湖南の本
おあつて東武のちけりし
いしおの自ささけり滅後
ておあつて本紙の中しに
洛のままとなりしとて
まらに柳の二言とて奥此
持てまざるの柳共とて
次に扇のつまんとて
し橋のまお持とて
よしとて全様の家持とて

不裁とありしをいふの傳者と云ふは
 ま。り。と。後。の。ま。さ。ら。に。ま。ら。し。み。り。の。ま。さ。ら。に。
 ことごとく田村の御事も清くまじくしるす
 ぶれぬまじ。なると後。の。ま。さ。ら。に。ま。ら。し。み。り。の。ま。さ。ら。に。
 の詞せある。トくみり。と。ま。ら。し。み。り。の。ま。さ。ら。に。
 ことごとく。ま。ら。し。み。り。の。ま。さ。ら。に。ま。ら。し。み。り。の。ま。さ。ら。に。
 き。と。ま。ら。し。み。り。の。ま。さ。ら。に。ま。ら。し。み。り。の。ま。さ。ら。に。
 ことごとく。ま。ら。し。み。り。の。ま。さ。ら。に。ま。ら。し。み。り。の。ま。さ。ら。に。
 ことごとく。ま。ら。し。み。り。の。ま。さ。ら。に。ま。ら。し。み。り。の。ま。さ。ら。に。
 の新話と申す。一。ね。ね。と。鳥。鳴。の。清。遠。訓。一

海よりとらむと書神の宮とまじくまらさ思
 のあやまちあられ。なれ。と。ま。ら。し。み。り。の。ま。さ。ら。に。
 蓮二云。之。後。ま。ら。し。み。り。の。ま。さ。ら。に。ま。ら。し。み。り。の。ま。さ。ら。に。
 行。揚。あ。う。く。ま。ら。し。み。り。の。ま。さ。ら。に。ま。ら。し。み。り。の。ま。さ。ら。に。
 ち。り。と。ま。ら。し。み。り。の。ま。さ。ら。に。ま。ら。し。み。り。の。ま。さ。ら。に。
 を。あ。ま。ら。し。み。り。の。ま。さ。ら。に。ま。ら。し。み。り。の。ま。さ。ら。に。
 ことごとく。ま。ら。し。み。り。の。ま。さ。ら。に。ま。ら。し。み。り。の。ま。さ。ら。に。
 の。ま。ら。し。み。り。の。ま。さ。ら。に。ま。ら。し。み。り。の。ま。さ。ら。に。
 遠。詠。と。ま。ら。し。み。り。の。ま。さ。ら。に。ま。ら。し。み。り。の。ま。さ。ら。に。
 法。格。の。辨。と。ま。ら。し。み。り。の。ま。さ。ら。に。ま。ら。し。み。り。の。ま。さ。ら。に。

ふあはれし和漢よる音は格とまの能借
の人此優格多しとや例のあはれとあはる
ふまはれし所の減な此例はあはれとや

短く解とく鳴らんと。春の草 芭蕉

ふ切 井上 雨掃とあはれとや。みよ

ふまはれし音と。此は月
をのふられとまはれし音

ふまはれし音と。此は月
をのふられとまはれし音
の切をかくのまはれし音と。此は月
をのふられとまはれし音

下段の神句より。中下此の切とあはるふ詞の
あはれしとまはれしとや

ふ切 秋涼し。白きとまはれし音
而。雪よあはれし。又の雨

右ニまはれしふ切あり。現在に。此は音と
あはれし音と。此は音と。此は音と
あはれし音と。此は音と。此は音と

ふ切 春。風。馬の扇はく。花はし
か。あはれし音と。此は音と。此は音と

百人抄巻三

右之季もも紀行ありておと駈路のち後
あれは二匹一と論あり後と彼子各所
新しと論さるる子中へ何れともなくと
二匹中もやむむとつれ何れもあれは
あつた林とはおとあつてと辨さるる
一匹の詞と返して馬とあつた馬と
あつた二匹の心と決まらぬ。かとの書用
おとあつた詞と一匹の心とよむとあつた
けつ子とあつたつ子とあつたつ子と
つ子とあつたつ子とあつたつ子と

句讀切

忘れまると依おの中。と涼か
あつたつ子とあつたつ子とあつたつ子と

右之季も天和の比此作せられたる例の曲即
あつたつ子とあつたつ子とあつたつ子と
に句讀のよると本式のもの中ゆと指め意
も既ゆの月とあつたつ子とあつたつ子と
と既ゆとあつたつ子とあつたつ子と
て句讀のよると本式のもの中ゆと指め意
も既ゆの月とあつたつ子とあつたつ子と
と既ゆとあつたつ子とあつたつ子と
と既ゆとあつたつ子とあつたつ子と

追善格 秋風よ折れてかきき。幸の株
昔帰よりあつた。夏の蓮 44

右さまと追善の心月うう。あつた。松屋山嵐
う武門の志とささかふ。うう。あつた。後を
園司にたう。讀き。う。余と。あつた。う。あつた。
まふ。と。ふ。お。後。格。め。う。ま。と。あ。つ。た。
二。ま。ふ。と。あ。つ。た。や。う。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。
と。用。ひ。れ。た。追。善。と。格。と。あ。つ。た。う。あ。つ。た。
ま。し。に。演。説。と。ん。た。と。と。能。格。の。ま。あ。れ。た。た。た。
白。格。と。格。う。う。あ。つ。た。の。あ。つ。た。と。格。と。あ。つ。た。

と七番帰ると書通帰と訓下る。し思郷の名お
とあつた。帰ると信む。お。秋。對。と。あ。つ。た。

即與解 追善の心月うう。あつた。七番
む。う。ま。き。け。秋。又。殿。と。あ。つ。た。

右さまと二所の秋。う。う。あ。つ。た。あ。つ。た。
あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。
後。ま。あ。と。殿。の。心。月。う。う。あ。つ。た。あ。つ。た。
の。清。和。と。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。
解。と。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。
あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。

世にとあるふれ式に守格の事とある也

格表

格ゆふにのとあるは親格

毎國魁

ほむとて竹持の事

右三事と毎國魁と親格は格表の
選場にかゝれ物格の句とてとり入集
まるとわしは格の句とてとり入集
の夜話とてとり入集の句とてとり入集
ル毎國の形とてとり入集の句とてとり入集
治事とてとり入集の句とてとり入集
後とてとり入集の句とてとり入集

ゆふとあるは格の事とある也
とてとり入集の句とてとり入集
りてこれとあるは格の事とある也
はとてとり入集の句とてとり入集
とてとり入集の句とてとり入集

墨字格

色字とてとり入集の事

志とてとり入集の句とてとり入集
てはとてとり入集の句とてとり入集
の事とてとり入集の句とてとり入集

のとらわたりをいふまじしなくいれ入例のたまりの端
 よ及びしとあらんを誅格とらうむの後はま
 白草の類説しけりらとるを格とらむ例の
 とせうとせうとせうとせうとせうとせうと
 の名を對しけるを格とせうとせうとせうと
 してその例をいふに敵とせうとせうとせうと
 地とせうとせうとせうとせうとせうとせうと
 ありとせうとせうとせうとせうとせうとせうと
 ともおぼしめありとせうとせうとせうとせうとせうと

穂餅鳥鼠の寄はるるまきとせうとせうとせうと
 し詩書のいりわりたりとせうとせうとせうと
 されたりとせうとせうとせうとせうとせうと
 けしとせうとせうとせうとせうとせうとせうと
 かく違ふなりとせうとせうとせうとせうとせうと
 しとせうとせうとせうとせうとせうとせうと
 八云のち後とせうとせうとせうとせうとせうと
 の格とせうとせうとせうとせうとせうとせうと
 物別のとせうとせうとせうとせうとせうとせうと
 十所しとせうとせうとせうとせうとせうとせうと

あしもおのり切手此を同に十二子の古は
論語或は二條のいふ所といひ撰出ゆふ
我を心切と惣各とあり今此序と別各
とあり一或や大過玄妙と論ありといは
とらひ申すといひ中切といふおと句讀切と
惣各とあり今此に別各といふ一
其れ中より可名切と祀名いふ妙の別各
といふおのりといふ所を心切の別各といふ
子書と二名一様といひ物別めといふ方の
あしはらしく二所の實様と書されい或目の

多岐といひあり古法の名目と持し
字名此見同し其あはれ了所々の勅懲
目とあしといふ字といふあまといふ所あし
授よりんといふ所の再撰の紀行の二書と掟い
花書の藤子と悔といふ所といふおと七七八の
比ちらうや祀名の為述化といふのを七丁月
たしと神子庵の遺稿と監撰よりん武の校風
あつけぬる芭蕉庵の及故より湖南の遺稿
いふ州より又庵といふい洛陽の遺稿といふ掃
よりいふい伊賀此西藤庵といひ再撰といふ

明稿を祖為し是所の家名撰あれ天和の比此
多子稿よりえ孫の遺稿よりたまりて祖傳の
遺稿を例とし是所の大臣あれははよとていふ
るあくち記とていふあおちとていふ新出の石
とていふとていふ美玉の傳とていふ人のいふく言の
及故とていふ十龍とていふあおちとていふ
二幸此の伝よりとていふとていふ我所の再思と
新とていふやあちとていふ我所の廉念と悔とていふ
えれとていふ此の地とていふあおちとていふ御祖とていふ
諱ありて例とていふ此の傳とていふあおちとていふ我所の

の書いとけけし二幸此優者と謙とていふ
あつねに二幸の愛諱とていふとていふ及とていふ
愛諱も程あつねとていふあおちとていふ
とていふ

○二京のうふ此事

むいりり和歌連よりあしり詞の優者あれ
各りりくしり用い事れし例し和訓のあら
とていふ何あらよとていふあおちとていふ
字書しとていふ字を多用しりて釋辭と稱歎し
の二用とていふ傳とていふあおちとていふ
かと訓とていふとていふ

疑のちとつし手と哉と疑の抑ととふやと
 かとを同じふ訓ありとらると哀やふも哀かふ
 りもふのちと大和の助詔して漢と那字と
 用もせしと咏嘆の餘韻として那字と詞と助
 一 大和直名とと哉那の二字ちち一和訓
 哉と来のれら假名韻府とんり一も也
 東を云け假名のり。假名韻府とえ禄七章
 の字稿とて中丁と漢との助詔辨とやう
 せり大和のち余遠彼とあへ中二と八義
 の詠文といひて音詔及詔の團詞とまに

東と空家那の假名遣ととらりて能讀の
 書代とととち或と又章北哉断ととけし
 假名直名のくるととととむはれし撰の
 中端りてお存と世ととらりて永承
 の章知よとらりて和漢の助詔と通用
 新大和詞と撰と今此訓美いも書と教在
 たり▲角撰とらんけ二訓の哉とちあはせ書
 のことく来と下葉の訓美とて保来の
 たり決定の詞ととら 款美ともタリケタリと
 不通累の詞ありと我とたれと去来のととら

^{アハレ}去^ルも思^ヒ来^ルも別^ニ和訓の用^ハあれ^ハ
 万葉の假^ナ刻^キあり^シ一^ニ果^ノの^ニま^と用^ハら^レる^也
 年^ハく^レと大和訓^ハら^レり

是れ^ハ連^ニ延^ニの^ハお^ハり^テ哉^ハも^シ家^ハも^シ
 今昔^ハ用^ハと傳^ハえ^レる^ハい^ハふ^ハい^ハふ^ハい^ハふ^ハ
 和歌^ハも^ハ歌^ハと^ハ浮^ハれ^テた^ハら^レし^ハれ
 と^ハ漢^ハと^ハ通^ハする^ハる^ハる^ハる^ハる^ハる^ハ
 今昔^ハ用^ハと傳^ハえ^レる^ハい^ハふ^ハい^ハふ^ハい^ハふ^ハ
 和歌^ハも^ハ歌^ハと^ハ浮^ハれ^テた^ハら^レし^ハれ
 と^ハ漢^ハと^ハ通^ハする^ハる^ハる^ハる^ハる^ハる^ハ

け^ハお^ハり^テ哉^ハも^シ和訓^ハの^ハ用^ハと^ハ傳^ハえ^レる^ハ
 今昔^ハ用^ハと傳^ハえ^レる^ハい^ハふ^ハい^ハふ^ハい^ハふ^ハ
 和歌^ハも^ハ歌^ハと^ハ浮^ハれ^テた^ハら^レし^ハれ
 と^ハ漢^ハと^ハ通^ハする^ハる^ハる^ハる^ハる^ハる^ハ

文字の訓義を漢土の助語辭とし名物あむ
 向て大和の用ひなされい今こは用と
 校とむしとらるる先師の遺稿の後話と
 我らも漢文と考あはしく諸書もふふ此和
 訓と懸ひてあやなく名達の子近よるね
 作の復くも歌の助語とのいひて漢漢文
 の用をなすまてへされし傳は傳文の訓義と
 こそまふさるた一も洛の表漢にあひゆり
 けししと地めしらうと語とそさしと次と
 案もる助韻ありとすてまねたまふりし

和訓と秘りありとアロロアロロ又韻うしれん
 大和の唱へしと忍くはけしと韻の
 あゆりとされしとま話して歌にあも
 とと詠あめ曲ありとされい盧々武助語
 のおる字とわぬむれ和漢の両用と通
 へ最^モ字^ヲ見^ル也^ニも和訓の用とすも
 漢文も儼音とありて歌字も一様
 へ用われ和文も訓とかりて待松へ用
 通とすもくまうと知されしと音と
 へ通されい花と葉と此訓とまされも

此と和音此艶詞とかな付よむと所余の
 鑑といつむよのほれ此後詞の大小といひ
 本換つらんといふ今此書近き詞の五葉
 那の歌ありとすやしるが哉とと和音の
 拍子せむと起此の舞の如くしたれぬ
 舞をいふといふやむいふおのれ舞の
 風此がと行一舞の如く哉
 ころる句とあり自集此設論の例の比。却と題
 とれとそとらる。哉も。却と。は。名。使。は。舞。の
 とかまねたれぬ。此等の法を。いふ。ま。や。舞。子

此あすり舞うたえ物。うらもはよ。△程。舞。の
 上げ舞とらる。哉と。と。浮。し。る。舞。も。と。い。舞。と。ら
 所て。初。と。け。る。候。お。の。舞。書。も。と。ら。い。舞。子
 して。舞。く。と。ら。と。反。書。う。り。あ。う。と。ら。の。舞。と
 といふ。却と。不。過。舞。の。用。も。と。ら。る。か。ま。せ
 きて。い。舞。の。以。式。と。色。く。の。各。目。あ。る。和。原
 の。通。用。あ。る。と。公。妻。の。代。り。と。い。用。い。か。い
 或。と。在。式。の。各。目。と。願。哉。と。い。ふ。あ。れ。と。舞。文。と
 い。法。し。た。此。字。舞。あ。ま。い。う。大。和。の。各。目。と。あ。い。い
 半。字。の。舞。舞。と。い。ふ。ま。い。や。在。今。に。色。く。の。各。目

あれいさあきしはさきと称歎のむすぶらん
例の多きしとむしよしと

○いささかむすぶらん

古おしらち。のむすぶらん。とむすぶらん。の各目あれと
例の和漢と通用さるる。と思ふ。とむすぶらん。の
懸耶と称歎哉。と合也。とむすぶらん。とむすぶらん。と
古おしらち。のむすぶらん。とむすぶらん。とむすぶらん。と
の論。とむすぶらん。とむすぶらん。とむすぶらん。とむすぶらん。と
の論。とむすぶらん。とむすぶらん。とむすぶらん。とむすぶらん。と

称歎哉。とむすぶらん。とむすぶらん。とむすぶらん。とむすぶらん。と
彼よ。とむすぶらん。とむすぶらん。とむすぶらん。とむすぶらん。と
むすぶらん。とむすぶらん。とむすぶらん。とむすぶらん。とむすぶらん。と
あり。とむすぶらん。とむすぶらん。とむすぶらん。とむすぶらん。とむすぶらん。と
とむすぶらん。とむすぶらん。とむすぶらん。とむすぶらん。とむすぶらん。と
約會のそ。とむすぶらん。とむすぶらん。とむすぶらん。とむすぶらん。とむすぶらん。と
の。とむすぶらん。とむすぶらん。とむすぶらん。とむすぶらん。とむすぶらん。と
也。とむすぶらん。とむすぶらん。とむすぶらん。とむすぶらん。とむすぶらん。と
喜。とむすぶらん。とむすぶらん。とむすぶらん。とむすぶらん。とむすぶらん。と
る。とむすぶらん。とむすぶらん。とむすぶらん。とむすぶらん。とむすぶらん。と

古式の常法や○かゝ接するに歎と平^カ此^カ之^カ子^カら
 へる子^カやの子^カ此^カ却^カお^カう^カの^カ字^カを^カさ^カく^カ平^カい^カ辭^カ
 傳^カ文^カと^カあ^カら^カく^カ平^カと^カ用^カひ^カて^カ後^カの^カ疑^カの^カ詞^カあり
 傳^カれ^カい^カ返^カと^カ辨^カあり^カと^カ歌^カ書^カの^カよ^カう^カと^カ色^カで
 返^カと^カ辨^カと^カは^カむ^カや^カん^カ何^カなる^カや^カ例^カの^カも^カあ^カと
 返^カと^カ多^カに^カ切^カ字^カの^カ用^カと^カ傳^カさ^カい^カ法^カと^カ疑^カふ^カと
 論^カと^カ及^カ字^カと^カ傳^カる^カ角^カの^カ抄^カ字^カと^カて^カせ^カと^カい^カと
 ま^カら^カと^カも^カ也^カ○榻^カ接^カする^カに^カ古^カお^カの^カそ^カる^カ領^カ裁^カと^カ子
 了^カと^カも^カあ^カら^カう^カ種^カ家^カの^カ名^カ教^カと^カあ^カら^カへ^カ領^カ平^カと^カい^カ子
 へ^カま^カと^カ傳^カ説^カと^カあ^カれ^カ。○と^カ落^カと^カあ^カれ^カ。○平^カ傳^カり^カ

あ^カの^カ字^カも^カ。○此^カま^カら^カ大^カ和^カの^カ助^カ語^カあり^カ真^カ名^カよ^カ平^カ那^カ
 と^カ傳^カり^カ平^カ止^カと^カ法^カと^カて^カ二^カ詞^カと^カい^カに^カ領^カひ^カめ^カと^カあ^カら^カん
 と^カ裁^カ字^カと^カい^カか^カつ^カて^カ此^カの^カ字^カと^カあ^カら^カむ^カは^カれ^カ。○此^カの^カ
 か^カ接^カと^カ古^カ式^カの^カ名^カ目^カと^カあ^カら^カむ^カは^カれ^カ。○此^カの^カ家^カ族^カと^カ
 家^カよ^カへ^カく^カ百^カ世^カの^カ而^カ益^カと^カま^カら^カう^カ。○榻^カ接^カと^カい^カ
 と^カ助^カ語^カの^カ平^カと^カい^カ世^カの^カ。○此^カ字^カの^カ助^カあり^カと^カさ^カら^カと^カ連^カ流^カ
 の^カ兩^カ字^カと^カい^カに^カ現^カ在^カと^カい^カま^カら^カと^カ切^カ字^カと^カい^カ過^カ去^カの^カ切^カ字^カ
 と^カあ^カら^カむ^カや^カた^カれ^カう^カと^カい^カ。○此^カ口^カ傳^カあり^カと^カい^カる^カい^カを^カい^カ
 と^カい^カ傳^カま^カら^カい^カ。○此^カ口^カ傳^カあり^カと^カい^カる^カい^カを^カい^カ
 と^カい^カ傳^カま^カら^カい^カ。○此^カ口^カ傳^カあり^カと^カい^カる^カい^カを^カい^カ
 と^カい^カ傳^カま^カら^カい^カ。○此^カ口^カ傳^カあり^カと^カい^カる^カい^カを^カい^カ

いづくの例にせよ。そのまじりたる例とあるは、
と口傳の如きことと云ふべし。此等といふ
は他の差あふくめられしを、和傳の圖
ひそくに和家の音用と稱するは、
の二と見ゆ。を。も。す。し。定。見。同。四
四。ま。れ。お。し。彼。ふ。い。キ。シ。ク。此。助。語。な。れ。い。海。一
切。ま。し。用。へ。し。し。未。來。の。言。り。飲。ま。し。い。真。各
る。不。欲。不。飲。と。言。ふ。や。り。文。句。の。用。り。て
全く助語にあされい切まし、用へるべきなり
ま。い。切。ま。の。音。用。と。裁。末。の。音。用。を。い。は。す。く

一子の傳ゆのり、又句にほくさるなり、
我家の音用と稱するは、
い切まし、あること、いんら、これを、
在式の名目と稱するは、
と轉回とされい、
す、あり、
或は、
へ、

東卷云け、
音韻の差あり、例に、日本の

二音約のあつらふんを二音の半北的言と
 二一^一△再撰するに我々の字を二假名を
 二一^一一真名と後^一一^一假名のみ^一一真名と
 二一^一一昔時^一一^一字^一の^一早^一なる^一二^一の^一あ
 二一^一一あ^一二^一の^一後^一二^一の^一人^一の^一あ
 二一^一一政^一の^一あ^一の^一二^一の^一あ^一の^一二^一の^一あ
 二一^一一^一の^一あ^一の^一二^一の^一あ^一の^一二^一の^一あ
 二一^一一^一の^一あ^一の^一二^一の^一あ^一の^一二^一の^一あ
 二一^一一^一の^一あ^一の^一二^一の^一あ^一の^一二^一の^一あ
 二一^一一^一の^一あ^一の^一二^一の^一あ^一の^一二^一の^一あ
 二一^一一^一の^一あ^一の^一二^一の^一あ^一の^一二^一の^一あ
 二一^一一^一の^一あ^一の^一二^一の^一あ^一の^一二^一の^一あ

或を二音^一と^一二^一の^一あ^一の^一二^一の^一あ
 二一^一一^一の^一あ^一の^一二^一の^一あ^一の^一二^一の^一あ
 二一^一一^一の^一あ^一の^一二^一の^一あ^一の^一二^一の^一あ
 二一^一一^一の^一あ^一の^一二^一の^一あ^一の^一二^一の^一あ
 二一^一一^一の^一あ^一の^一二^一の^一あ^一の^一二^一の^一あ
 二一^一一^一の^一あ^一の^一二^一の^一あ^一の^一二^一の^一あ
 二一^一一^一の^一あ^一の^一二^一の^一あ^一の^一二^一の^一あ
 二一^一一^一の^一あ^一の^一二^一の^一あ^一の^一二^一の^一あ
 二一^一一^一の^一あ^一の^一二^一の^一あ^一の^一二^一の^一あ
 二一^一一^一の^一あ^一の^一二^一の^一あ^一の^一二^一の^一あ
 二一^一一^一の^一あ^一の^一二^一の^一あ^一の^一二^一の^一あ
 二一^一一^一の^一あ^一の^一二^一の^一あ^一の^一二^一の^一あ
 二一^一一^一の^一あ^一の^一二^一の^一あ^一の^一二^一の^一あ
 二一^一一^一の^一あ^一の^一二^一の^一あ^一の^一二^一の^一あ
 二一^一一^一の^一あ^一の^一二^一の^一あ^一の^一二^一の^一あ

他漢の傳と心む△程撰よりて未來の。此字
の野傳と云ふる東坡の孟頫に據る。其
てとゆくり書ん哉とてに切子の如きあり
而くやうやくせとてし時とくの新とくすさ
ぬるのころの象議とくゆくと其老母より
て天の旨人會かありあがとすに譯し
けふ一傳とて下此る式を用ひ事なる未來此
にその切子とて過去の。その切子
とありれば知る。此に傳し用とありけり
一部のを撰みんといはらるよひの傳傳と

いふよりその支配とす。こゝに
或は大和の助語の中に和漢の通用と云はれり
換字い子此るやそのあも二字換りその語の通用
して直名とて天字と用へり。子字換り和音
の傳言として正字と用へり。はるに和音の
抄物よりその家のやうとくな別のため
ちるんととてら。はるやの字に可と備
とて他漢の字に換り。子字換りやの字
らるやとてそのまゝとて。○今換り
換字のやうとむとて字とて海とてとむと
子

ちりとの何れもさうなり。又さうと大和の助語
 或ともあらまはら。もし或を推る。起るら
 しいさひやる未味の詞をこれ例のも名付とせね
 なるなりをりもりなるのたふてらむとの
 疑辨とせねるあるん助語とせねるの和漢
 の例ありて或とさすは字し及なり例の
 論語の正字とせねるは後訓とせねる也
 是れ和訓の正字とせねるは千言に記る也
 なるらむの例とせねる義の訓とせねる也
 連ニ云はる連飛も亦遠依のしと文書也

意圖して我々の助字おもあへてあれ後音
 と和訓と通用して平語の日用とせねる也
 實元のまおふるなり和訓とせねる
 なるしとせねるなり和訓とせねるなり
 なるしとせねるなり和訓とせねるなり
 直名とせねるなり和訓とせねるなり
 の通用なりとせねるなり和訓とせねるなり
 和漢の用ありて始と哉字の二用とせねる
 哉と手と訓して助語とせねるなり
 といひ助語とせねる哉と訓して和漢の
 直名とせねるなり

の通韻あれは本或はるの同いふ訓ありて
 とちつし小註の詞ありし稱るる類義の差お
 ありしをさても一谷うよあるを我にけし式の
 徴中と信さく一次に耶と世のいふもに
 ちる漢字の音多れは和とえと音治り
 一系といふ事ありし餘といふ錢といふ徳利
 砂鉢ともいふ也次に手と次の手より歌を
 の後篇に讀く也と註ありしに能信のこゝに
 也とやと名が代とも林が香ともなると手
 次の子美あはれと類也といふと孔子と

といふ儒書に點あるの慣習とあるは
 君とい何の慣りあるにたし詞のあやふ
 りといある一次に北野圃と我を北
 野といふにあはるは自らとをさして
 用たて家少とあるは人傳とありしに北野の助
 諱といふ。といふ。何のあやふといふ
 けつなといふと和訓の神祕といふ諱の助音
 も大和の助訓も言語不到のるにありし
 り本のいれ日本といふ漢字の助諱辭と後
 といふと取てし取まは推考といふと取

原字の優言一々和訓の助語をかきぬ
らしと一詞十知の凡例一々義の讀みの
うに動破ま一誠や詞の急緩と辨
唯乃と多入婦と命と多入てはたれい
るに一てたれい緩ちる天の書我と
よまの他例の例の傍注平誅と貴成を
の凡用らり土農子高の凡用らり下字を
凡用と多入日本の凡例と急をた
る也

○一頁の表へ句の事

昔時より和語とて一々連記の中心はは
らしたる句と下句と作と我とらるるに
たれと連記の和語とて一々後句の
ことし一美の式と後の凡例とて一々表
連記の本式とて一々表と句と各
の事と一々句と一々連記の凡例と
一々和語と連記を在る一々和語と
一々和語の式と作と一々表と句と
と或るやと一々句と一々表と句と
一々表と句と一々句と一々表と句と
一々句と一々句と一々句と一々表

八句の角より神祇類教意中常の各所人各を
 増やすの者句服牙之中より一巻の積方と成
 ちよ下の或るは句降より初折と所おや
 一月を自ら直さくねとほくきく一はれく
 といに物よりおれと神祇の各月と
 一巻の積方と成とさく一はれく
 右極の二氣地物とさく一はれく
 されはれとさく一はれく
 妙子のほはありとさく一はれく

引次と服よりやと一万物と一はれく
 二とちりちと混一の染法とさく一はれく
 け傷の和合とさく一はれく
 の傷らるとさく一はれく
 け積の二巻とさく一はれく
 さく一と一はれく
 けしあれし物字とさく一はれく
 是と定とさく一はれく
 ち中とさく一はれく
 万物とさく一はれく

少の子にての字は軽きよ余はとて一文字所向入
 ちよちさんしと格えそを替へて一文字式よ
 初字るとしん或とめあしとあるしと我は
 どの所居あしゆしてとあるとまじりて一文字
 日向月ありとちよと天敷ととまじり一文字は
 地敷と口とまじり和名と日向月と百初め成り
 一文字とあまのこやこれ軽きとまじりあ
 の親疎と隔とまじりまじり初め成りかんと
 用とまじり格とまじりまじり下まじりあ
 ちよ月とたの二文字の地とまじり七文字とあま

月夜よりし時と新奇と求ちととと月也と月夜の
 恒例ちりり一文字月と月夜新と一文字は
 候式の能造とあまの表ととあまの夏州行の
 之群と曲名地の之様と二文字の換おまじりあ
 一文字の今替まじりあまの改更と儒行所家の
 一文字とあまのあまのあまのあまのあまの
 十善と詩法とと起空の口格とあまの歌書とと
 一文字の互義ととこれととあまのあまのあまの
 一文字とあまのあまのあまのあまのあまの
 一文字とあまのあまのあまのあまのあまの

まゝに表化の用なれはる節をよゝ一五表わりの

○句折の曲節地此事

おし百節の片とて中と一五を以折の面とて折
こゝに表と裏あり而して今此の二句と
と下けなよと式とて折とちうとて面と裏と
とら表と字とて而してあり表と而して二用
とある一はらる節の配とてちう中とて折の表化
とてらるとて曲節地のこととてちうとて表化の
各とてちうとてちうとて今様の詛物とて地とて

節と次と一申とて申た表おありとて白馬と
宗訓の西すちりもとてれい解白も解合とて表の
詠とて表向と句作の差おありとて表向とて
句作と後とてちうとてちうとてちうとてちうと
とてちうとてちうとて表向とて申とて表向と
はけあ表のちうとて調とてちうとてちうとて句作の
ちうとてちうとてちうとてちうとてちうとてちうと
ちうとてちうとてちうとてちうとてちうとてちうと
表とてちうとて表向とて西念のちうとてちうとて
表とてちうとてちうとてちうとてちうとてちうとて
表とてちうとてちうとてちうとてちうとてちうと

ことばのしるしをいふに――美事なりてなむとてはむとて
 法ありてされと執中法にんしてはむとてはむとて
 曲事地なりとねとてはむとてはむとてはむとて
 曲事地なりとねとてはむとてはむとてはむとて
 例の不易なる事なりとてはむとてはむとてはむとて
 の趣向とてはむとてはむとてはむとてはむとて
 一言語とてはむとてはむとてはむとてはむとて
 歌の向くとてはむとてはむとてはむとてはむとて
 笑ふこと他者の名とてはむとてはむとてはむとて

ことばのしるしをいふに――美事なりてなむとてはむとて
 法ありてされと執中法にんしてはむとてはむとて
 曲事地なりとねとてはむとてはむとてはむとて
 曲事地なりとねとてはむとてはむとてはむとて
 例の不易なる事なりとてはむとてはむとてはむとて
 の趣向とてはむとてはむとてはむとてはむとて
 一言語とてはむとてはむとてはむとてはむとて
 歌の向くとてはむとてはむとてはむとてはむとて
 笑ふこと他者の名とてはむとてはむとてはむとて

是くも一しはれし和をり和まれしれとて和を
 とする古人の指と云ふはさきよりさき
 せうな人と優游自在の人とをせめて合従の一
 折とせしむる約のそ尾あれしはさきおれは連
 ともくして知白せしめし人とあつたは
 二所の説してひて世にのり合はしむるは
 二書の二つを句花と云ふ句はさき書かんと
 是れはさき句はさき書かんとはさき書か
 一折もせしむるはさき書かんとはさき書か
 疎句はさき書のそ尾とてさき書かんとはさき書か

のあまひりてはさき書かんとはさき書か
 い書かしの用して次第をかくのよきとて折
 のそらしたる後あんとてさき書かんとはさき書か
 と書かんとはさき書かんとはさき書か
 されしはさき書かんとはさき書か
 一し例の継接自在ちりてはさき書かんとはさき書か
 互射八教し竹林の園と麻とてはさき書かんとはさき書か
 の燕換しやうせんとてはさき書かんとはさき書か
 剛詩正書とてはさき書かんとはさき書か
 ちれとるの奥係してはさき書かんとはさき書か

ちりやうと多に口とぬまへてまゝとちりやうと多に母
 とちりやうと一とちりやうと能借の頃挫るう
 法とちりやうとちりやうと一と能借の温和聖名色
 赤蒼とけけと能借の变化ありて趣向と
 句作の音用と世に一人句の音用と一
 ちりやうと能借とちりやうと一と能借の趣向
 とちりやうと一とちりやうと能借の趣向と一と能借
 の趣向と一とちりやうと一と能借の趣向と一と能借
 ちりやうと一とちりやうと一と能借の趣向と一と能借の
 ちりやうと一とちりやうと一と能借の趣向と一と能借の

ちりやうと多に口とぬまへてまゝとちりやうと多に母
例

ちりやうと多に口とぬまへてまゝとちりやうと多に母

ちりやうと多に口とぬまへてまゝとちりやうと多に母

ちりやうと多に口とぬまへてまゝとちりやうと多に母
 ちりやうと多に口とぬまへてまゝとちりやうと多に母
 ちりやうと多に口とぬまへてまゝとちりやうと多に母
 ちりやうと多に口とぬまへてまゝとちりやうと多に母

ちりやうと多に口とぬまへてまゝとちりやうと多に母

ちりやうと多に口とぬまへてまゝとちりやうと多に母

ちりやうと多に口とぬまへてまゝとちりやうと多に母

られしはよみおとさし採の地りてし
てはよみおほくせはるめ句あれはれはり句
の例とまろくさせは採撰もあらけは採撰集
の樂也とて採家の百千一萬とて採家の
正一代採事と撰者といひて採りては採
まのと鼓舞の役者として選場の大臣とい
てのまもせけれはるし白馬の談笑訓と國某名採
のあらはるは採事といひて採撰の所合とて採
おは採事あれしは採撰集撰撰此は採事と
採りて採事とて採りて採りて採りて採りて採

藤林とや後の人といふに採事といふは
おほく採りて採りて採りて採りて採りて採
ちる

○月花抄事

月花といはれぬは採りて採りて採りて採りて採
の花といはれぬは採りて採りて採りて採りて採
は採りて採りて採りて採りて採りて採りて採
せりて採りて採りて採りて採りて採りて採
は採りて採りて採りて採りて採りて採りて採
中より採りて採りて採りて採りて採りて採りて採

詞とありてあまの世にの舞とて問ふまじの梅も
二月と花とともさの艶美とついで秋の信冷と
それ二月とらきと各月とて物とて陽のお對
とて二月とや花とて古式のら花端とて花に
いろくのにおありて或は花とて言はるるあり
或は花とあはれとて或は花とて言ふも花と
十色とて言ふも花とて言ふも花とて言ふも
へうとて言ふも花とて言ふも花とて言ふも
艶美の舞は各とて二月と花とて言ふも花と
いふもあはれとて花とて言ふも花とて言ふも

花とて言ふも花とて言ふも花とて言ふも
何とて言ふも花とて言ふも花とて言ふも
さして侍句辨とて言ふも花とて言ふも
のこかくりて二月と花とて言ふも花と
是説とあはれとて言ふも花とて言ふも
とて言ふも花とて言ふも花とて言ふも
とて言ふも花とて言ふも花とて言ふも
ふとて言ふも花とて言ふも花とて言ふも
ふとて言ふも花とて言ふも花とて言ふも
ふとて言ふも花とて言ふも花とて言ふも
ふとて言ふも花とて言ふも花とて言ふも

のはくまじしむらうく連珠のふらちまじり
 今此能階ふはまじりゆり鼻我島は使の
 取をゆりて今之用とあらむとてくはと
 主能れと書付の用とす用とと此年の人
 主とゆりてはとせはまじりゆり鼻はむら
 の詞のあやふれと今とて此能階と知れ
 此年二端とゆり鼻のむらと今とてまじり
 持也あむらとや一旦のるゆり鼻とを
 知まの式月と一た下通の旨と分れたる
 の下とゆり大と書にまじりゆり鼻と
 持也

決と一らうやけり今持んまむら新
 大論ふして此の夏評とにとあると一
 かくせとくあむらと今とて此能階
 のたゆりゆり鼻の辨氣とゆり鼻と
 目とす今目此高句とゆり鼻と今
 とある分と月とのたあむらと今
 の式とゆり鼻と一らうやけり今
 今とゆり鼻と今とて此能階と
 今とゆり鼻と今とて此能階と
 今とゆり鼻と今とて此能階と
 今とゆり鼻と今とて此能階と

けぬと百韻を花名の五律を八句月と月秋と
了る一執筆より月秋と百韻を花名の秋字
よりとちりて月を為句とありし一下の百韻
の換おより一中大と百韻の連能より一句句
月秋と改れい何々と花名の秋字よりた
字の七句句と改る一花名の新を一句ありて
結とまるとにそとそとそとそとそとそと
扱してはあえとそと秋とそとそとそとそと
と何々とそとそとそとそとそとそとそと
いかにそとそとそとそとそとそとそと

と百韻の月とせり一きれいと初免の例もあは不用
の例もあは不用一きれいと初免の例もあは不用
司と例の自在より一きれいと初免の例もあは不用
と花云はらう一きれいと初免の例もあは不用
能讀と誦讀の例もあは不用一きれいと初免の例もあは不用
何れも新の例もあは不用一きれいと初免の例もあは不用
よとそとそとそとそとそとそとそとそと
一字も古の例もあは不用一きれいと初免の例もあは不用
とそとそとそとそとそとそとそとそと
のたをとそとそとそとそとそとそとそと

白雲抄卷三
三

と月花の公式とてなりて花は新の天端なり
 月と云ふはの新観りなる月の儀なり軍年
 うして世にまも用を捨らりと遠く
 らとあふと近く梅と露ありて他はのたふ
 へき物ありんちると我々の双牙とあら
 して月花の威とあらとてまもとあらんはま
 の實法の種もあられ花はと接合の回
 かふしんはとていかりとていかに此儀の
 再撰なり

○ 拾下と去嫌也事

右式と拾下と去嫌とてふは月と各月の名ふら
 たりとて拾下とてふは名はとらむ去嫌とてふは
 原物のあらんまはれと名に用ひてはよりと式
 服とてとてのふあるとて○今接合たるは
 亦月とていれられたる軍とてはて連をよみ只と
 ある物とて記さる音訓ありてとてとてとてと
 連をよみ軍の制なりとてとてとてとてとてと
 とてとて記さるはとてとてとてとてとてと
 へとて記さるはとてとてとてとてとてと
 他記とて下記とてとてとてとてとてと

あつらひらるる侍姫の出入り女中へしむる事
もあつらふ事とせしむる侍姫の事
いふに折をらの侍遊とせしむる侍姫の事
とせしむる侍姫の事
の用あつらふ事とせしむる侍姫の事
とせしむる侍姫の事
あつらふ事とせしむる侍姫の事
らつらふ事とせしむる侍姫の事
の人をせしむる侍姫の事
せしむる侍姫の事

とせしむる侍姫の事
の用あつらふ事とせしむる侍姫の事
とせしむる侍姫の事
あつらふ事とせしむる侍姫の事
らつらふ事とせしむる侍姫の事
の人をせしむる侍姫の事
せしむる侍姫の事

人思の虎のしんかやの甲お母あつていへん
とておれい思へていへんあつて連をせ
の災軒あつてかくと連能のちかあれと連歌の
こととていへん能のいへんこととていへんおれとて
例のいへんてはとていへんおれとていへんおれとて
の能のいへん指合のいへんおれとていへんおれとて
こととていへん自故自業此は法とていへんおれとて
中一あつていへんおれとていへん能のいへんおれとて
世にらりあつていへん信とていへんおれとていへん
とていへんおれとていへんおれとていへんおれとて

いへんおれとていへんおれとていへんおれとて
も所向とていへんおれとていへんおれとて
おれとていへんおれとていへんおれとて
とていへんおれとていへんおれとて
いと御の向とていへんおれとていへんおれとて
とていへんおれとていへんおれとて
とていへんおれとていへんおれとて
とていへんおれとていへんおれとて
とていへんおれとていへんおれとて
とていへんおれとていへんおれとて
とていへんおれとていへんおれとて
とていへんおれとていへんおれとて
とていへんおれとていへんおれとて
とていへんおれとていへんおれとて
とていへんおれとていへんおれとて

晴くぬと襟 自らとまきほけて能活の席は極
けり其の折紙は牛とりくひやうなるなるの国を
ちりて入り可のこくとしらるる或は
或はしんちなるに能活はなるなるなる
とやましく公界はしんちなるなるなるなる
の指令とてしんちなるなるなるなるなる
つとらしんちなるなるなるなるなるなる
のあし能活はしんちなるなるなるなるなる
なるなるなるなるなるなるなるなるなる
しんちなるなるなるなるなるなるなるなる
なるなるなるなるなるなるなるなるなる

朝よりやしんちなるなるなるなるなるなる
とめしんちなるなるなるなるなるなるなる
さしんちなるなるなるなるなるなるなる
別合らりと指令とてしんちなるなるなるなる
なるなるなるなるなるなるなるなるなる
しんちなるなるなるなるなるなるなるなる
とめしんちなるなるなるなるなるなるなる
指令とてしんちなるなるなるなるなるなる
指令とてしんちなるなるなるなるなるなる

車を云今より指令とてしんちなるなるなるなる
の両式より指令とてしんちなるなるなるなる

の語抄し詳みわしきまへにふかき事とあり
 一余と例の百通あり一かたきわしき能活の
 事と本より連なりと解とありありあり
 の新事と極むの二書とありありあり能活と
 中より能活し用探のさうくとありありあり
 例のちとありありあり連なりとありありあり
 ありありありありあり新古とありありあり
 一約字あり Δ 撰云約字のははる能活しははる
 ありありありありありありありありあり
 一輪廻あり Δ 撰云能活しははるの中盤とありありあり

一とて句のなまはとてけりありありありありあり
 一照のふなはしり言の句のちりありありあり
 所合の掃通あり一たの句のちりありありあり
 ありありありありありありありありありあり
 能活しははるありありありありありありあり
 ありありありありありありありありありあり
 ありありありありありありありありありあり
 一本歌あり Δ 撰云能活しははるありありあり
 今も能活しははるありありありありありあり
 ありありありありありありありありありあり

まねいすふらふり可なり。其れ一なり。右治
 のあつらひらと。いふはと。おらし。と。か。り。し。い。こと。
 の。か。つ。ら。ひ。ら。と。文。一。採。摘。の。書。法。も。ち。や。能。治。す。
 い。ご。事。話。の。あ。ら。ふ。れ。は。治。す。摘。の。言。を。採。ん
 ん。の。あ。つ。ら。ひ。ら。と。能。治。す。と。い。ふ。は。い。ふ。が。
 して。あ。つ。ら。ひ。ら。と。い。ふ。は。い。ふ。が。か。り。
 右。治。と。用。ゆ。り。し。は。治。す。と。か。り。し。う。は。い。ふ。
 能。治。す。事。話。の。言。を。採。り。す。也。
 一。新。物。能。用。す。 △。撰。云。ら。う。し。と。い。ふ。の。あ。つ。ら。ひ。ら。と。
 といふは。一。能。治。す。と。い。ふ。は。い。ふ。が。用。ゆ。ら。し。と。い。ふ。

淋用の扱より少く。家の地より。川。橋。より。い。ふ。
 といふ。可。し。は。り。し。と。い。ふ。は。い。ふ。が。用。ゆ。ら。し。と。い。ふ。
 あ。れ。い。は。い。ふ。に。し。は。り。し。と。い。ふ。は。い。ふ。が。用。ゆ。ら。し。と。い。ふ。

一。此。百。物。す。 △。撰。云。前。式。より。い。ふ。思。慮。の。お。れ。せ。
 と。い。ふ。と。中。古。此。能。式。より。い。ふ。然。し。の。あ。つ。ら。ひ。ら。と。い。ふ。は。い。ふ。が。用。ゆ。ら。し。と。い。ふ。

知。り。し。と。い。ふ。は。い。ふ。が。用。ゆ。ら。し。と。い。ふ。は。い。ふ。が。用。ゆ。ら。し。と。い。ふ。

と。論。を。い。ふ。は。い。ふ。が。用。ゆ。ら。し。と。い。ふ。は。い。ふ。が。用。ゆ。ら。し。と。い。ふ。

今。此。能。治。す。の。扱。も。同。名。に。し。は。り。し。と。い。ふ。は。い。ふ。が。用。ゆ。ら。し。と。い。ふ。

一。い。ふ。は。い。ふ。が。用。ゆ。ら。し。と。い。ふ。は。い。ふ。が。用。ゆ。ら。し。と。い。ふ。

思。慮。の。お。れ。せ。と。い。ふ。は。い。ふ。が。用。ゆ。ら。し。と。い。ふ。は。い。ふ。が。用。ゆ。ら。し。と。い。ふ。

此ことこそ林の書しつせしむると流傳のまを在
 のまじき流傳のまを在といふは、いふに、
 流傳のまを在といふは、彩の用は、まじき申す
 毛のまを在といふは、詞のまを在といふは、
 折とまを在といふは、一詞のまを在といふは、
 況や二た二句、物より、まじき、まじき、まじき
 極むとあつた、まじき、まじき、まじき、まじき
 こそ、まじき、まじき、まじき、まじき、まじき
 一可合別物す。△撰云、連、まじき、まじき、まじき、まじき
 此のまじき、まじき、まじき、まじき、まじき、まじき

論ふらん、まじき、まじき、まじき、まじき、まじき、まじき
 のまじき、まじき、まじき、まじき、まじき、まじき
 一可合別物す。△撰云、連、まじき、まじき、まじき、まじき
 此のまじき、まじき、まじき、まじき、まじき、まじき
 こそ、まじき、まじき、まじき、まじき、まじき、まじき
 一可合別物す。△撰云、連、まじき、まじき、まじき、まじき
 此のまじき、まじき、まじき、まじき、まじき、まじき
 こそ、まじき、まじき、まじき、まじき、まじき、まじき

五七五七七の落し古今と云ふは一
 向ありし 撰伝はしる連音此或月と法秋意
 の又句よりして互をさると句ちりり 能治の例の
 用捨して句と句とをさくればしあ句の府
 の互し冬もあはれあはれ句をさす 密句
 のあはれよりりりり連音の艶句と句
 句をさしられし法秋の二ままとり法して句と
 をさるる例も月花の句をされしとさるる
 とさるる也とさるる法秋と句をさるる
 と句をさるるも同季の法秋の句をさるる

ちり七首條の標むと右守の新式一十七
 條の年ととくりりりり連音と能治
 と用捨のるる法とされし也と法秋の標
 の和音連歌と名とあはれ句をさるる法秋の法
 とさるるもあはれ句と名目のおまじとさる
 と法をさるる也標をれし例と法秋の削れし
 とさるる一法と人事此言とさるる不知言
 不知言と法秋一部の法とさるる一法と
 馬牛とさるる也法秋の法秋の削れし法り
 法りけしとさるる能治の法とさるる人の柄

るる所はまゝにけりてはなほけつんも此儀の例の
 世法にかつてもお金と嫌とほくまふといふ
 五七の能活と書つてもし命のあらしき席を
 ほくまへて目のお入程とあつてせしめる儀仰
 のは席とともあつて又戒又常とまゝおほく
 ちる所とほくまへて用とあつてし今もそへて
 の宗匠通達も連そ此式と繼ふらるるに
 連そ此執とかふへてもなると僧徒此般捷
 とし能活のそへてしよつてもなむ

古公和式りく二終

